

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	周南市立岐山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	27
児童数	103	89	90	95	100	106	1	584	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりがわかる喜びを味わう算数学習 ～子どもの願いを大切に学習方法の工夫改善を通して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2～6年生の算数科全単元において少人数指導の形態を取り入れ実施した。また、少人数の学習集団を学習方法(習熟度を含む)別に編成することで、それぞれの個に応じた指導の展開に努めてきた。

一昨年度、理科や国語科においても実施してきたが、理科においては実験・観察器具や場所等の確保に困難をきたした。また国語科においては、算数科ほどの習熟度差が見られなかったため、必要性の高い算数科一つに絞り進めていくことがより効果的であると判断した。

少人数指導における学習形態は、2・3年生については学級単位での教師や友達とのつながりを重視し、一学級を二つのグループに編成し担任と専科教員が指導に当たった。4～6年生については、習熟度にやや差が見られるため、全学級を解体し学習方法(習熟度を含む)別の3コース(5グループ)を編成することで、学習のペースや課題の難易、また発展的・補足的な内容を含んだ学習が展開できるであろうと考えた。

(2) 年次ごとの計画

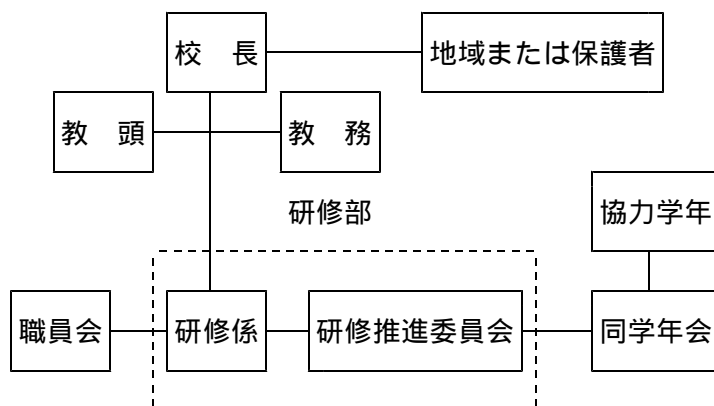
平	テーマ 「学習環境を整える研究」 (教師の意識改革と新カリキュラムの試行) ・ 研究主題 学ぶことの楽しさや充実感を味わう学習指導をめざして
---	--

成 14 年 度	<p>～時間的・精神的にゆとりをもって、 自分で様々な学習活動ができる学習指導～</p> <p>研究の見通し（仮説） 少人数指導への取組を通して、その指導方法や評価における工夫改善に努めることで、基礎基本の定着を図り、個に応じたきめ細かな指導が展開できるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導体制の確立 （各集団の機能性と効率性の追究） ・ 指導計画の作成と評価計画の作成 （評価規準を具体的に作成）
-------------------	---

平 成 15 年 度	<p>テーマ 「学習内容を深める研究」 （楽しさと充実感を味わえる視点による教材・教具の開発）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題 一人ひとりがわかる喜びを味わう算数学習 ～子どもの願いを大切にした学習方法の工夫改善を通して～ <p>研究の見通し（仮説） 個に応じた指導の展開とそれぞれの少人数グループに合った教材・教具の開発に努めることにより、きめ細かな指導の展開が図れるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導のための教材・教具の開発 ・ 習熟度別学習や地域人材を活用した授業の工夫 （岐山小の学習スタイルの確立と定着） ・ 指導計画と評価計画の見直し
------------------------	--

平 成 16 年 度	<p>テーマ 「学習成果を高める研究」 （評価を生かした授業づくり）</p> <p>研究の見通し（仮説） 評価と指導の一体化を図り、個に応じた評価活動やコースに合った評価方法等を工夫改善することにより、これまでの学習スタイルをさらに高めたいきめ細かな指導の展開ができるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学習状況に気付き、次の学習目標をもてるような評価の生かし方の工夫 ・ 習熟度別学習の評価の工夫と授業づくり ・ より客観的な評価規準の作成と授業づくり
------------------------	--

(3) 研究推進体制（全校体制での取組を進めている。）



* 研修部の在り方

各学年1名と研修係の7名＋校長・教頭・教務が適宜参加し、研修の進め方 研修の内容 研修の情報等について、月に1回程度の会をもち、運営に当たっている。各学年で話し合った意見をもち寄り、全校的な取組への方策を考えたり、研修部で決まったことや話し合ったことを学年で共通理解し、全校体制で取り組んだりできるようにした。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

児童アンケートから（全体平均）

- ・ 「少人数指導を楽しみにしているか」
楽しみにしている。(96%)
- ・ 「理解の様子について」
よく分かり始めた。(45%) 分かり始めた。(39%)
- ・ 具体的な意見
自分のペースに合った学習ができる。
発表がしやすくなり、楽しく授業に参加できる。
学習したことがよく理解できる。
算数が好きになった。
いろいろな先生と学習できる。

保護者アンケートから（全校平均）

- ・ 「少人数指導についてどう思うか」
よい。(76%)
- ・ 具体的な意見
理解度に合った授業が進められているのでよい。
人数が少なくなったことで、先生の目が届きやすくなり向上心が高まってきた。
単元ごとに見直しができ、子どもに合ったコースが選択できる。
親子で話し合う機会がもてるのでよい。

教師アンケートから

- ・ 同質に近い学習集団のため授業が進めやすい。
- ・ 進んで授業に臨む児童が多くなった。
- ・ 少人数ゆえに一人一人への個別指導が行いやすくなった。

CRT 教研式学力テストの結果より

- ・ 毎年3学期(1~2月)の実施により、児童の学力の定着度を判断する資料としている。今年度は1月末現在、未実施のため、一昨年度と昨年度の結果を対比した。
 - ・ 児童の成長を追って状況を見ると、どの観点もA(十分満足できる)・B(満足できる)判定が増加しC(努力を要す)判定が減少しているのに対し、数学的な思考についての観点のみ、軒並みA・B判定が減少し、C判定が増加している結果が顕著に表れている。
 - ・ 学年における各年度の状況を見ると、一昨年度(平成13年度)よりも昨年度(平成14年度)がどの学年も概ね全ての観点において平均点が5~10点以上の伸びを示しているが、4~6年生における数学的な思考の観点のみ伸びが見られない。どの子にも「分かる授業」をめざしてきた本校の少人数指導に対する取組が、知識・理解に偏った指導となってしまっているのだろうか。今後検証し、計算や法則の仕組みについて問い返したり、思考を揺さぶる課題設定を行ったりすることで高めていけるよう努めていきたい。また、算数科に限らず他教科とも連携し、思考を高める学習の展開やその手だてについても考えていきたい。
- 指導の実際から(成果と今後の課題)
- ・ 家庭学習を自主的に行う子や理解できるまで教師に尋ねようとする子、またアンケートにもあったように、算数が好きになった子が多く見られたことから成果は着実に上がっているように思う。
 - ・ アンケート結果から、テストの点が上がらないといった保護者からの痛切な意見も出てきている。その要因を今後検証し、どの子にも成果が上がる指導となるよう体制や方法等について再度見直しを図りたい。また、点には表れない学習成果を保護者へ伝えるための客観的なデータ収集についても検討したい。
 - ・ 少人数指導を続けているが、少人数集団に対する一斉指導だけで満足していないか。少人数指導からもう一歩進み、個に応じたよりきめ細かな指導の展開がなされるよう努めていきたい。
 - ・ 今年度重点をおいた教具の開発については、児童の自己評価や単元終了時に行った授業評価においても「教具を活用して楽しく学習できた」「教具があったので学習内容がよく分かった」などといった感想や意見が聞かれた。さらに、学習で活用した教具を教室の後ろなどに置き、誰もが自由に利用できるようにすることで、休み時間などを利用し遊びながら計算練習や学習に関連する内容の操作活動を楽しむ姿が見られた。来年度も効果的な教具の開発に対し、その重要性を感じながら引き続き課題として取り組んでいきたい。
 - ・ 少人数指導の取組を始めて3年が経過しようとしている今、本校の児童や保護者にとって少人数指導はごく当たり前のものになりつつある。いつまでも、以前の学級における一斉指導の意識を引きずり、それと対比して、有効な点を数え上げて上げていくだけでは向上は望めないし、高まりゆく児童や保護者のニーズに応えていくことも難しいのではないだろうか。現在の指導体制をまず基本に置き、これを出発点としていかに児童や保護者のニーズに応える指導の展開ができるかが今後の大きな課題となるであろう。

学力等の把握のための学校としての取組

- * 毎年3学期に実施する学力テスト(今年度は2月実施)
教科は国語と算数で実施

実施学年は1～6年までの全学年（ただし特殊学級は除く）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 教育事務所管内の全小中学校へ呼びかけた校内研修会の公開

日時 11月18日（火） 13：30～16：35
会場 周南市立岐山小学校
参加者 校外参加者54名（県内26名 県外28名） 本校職員27名
内容 第5学年算数科 少人数指導
日程 13：30～14：15 公開授業（3学級 5グループ）
14：35～15：30 分科会（コース別協議 受指導）
15：45～16：00 各分科会報告
16：00～16：30 全体受指導 広島大学大学院教育学研究科
助教授 小山 正孝 先生

日時 1月28日（水） 13：30～16：35
会場 周南市立岐山小学校
参加者 校外参加者12名（県内14名 県外 0名） 本校職員27名
内容 第3学年算数科 少人数指導
日程 13：30～14：15 公開授業（1学級 2グループ）
14：35～15：45 全体協議会
16：00～16：30 全体受指導 山口県教育庁指導課
指導主事 兼重 光雄 先生

* 他校や他県から研修視察での来校により、本校の進めている少人数指導についての概要説明や授業公開を行った。

日時 平成15年10月31日（金） 8：15～11：30
来校者 広島県三次市立青河小学校より2名
内容 5年生の授業公開（算数科 少人数指導 3学級 5グループ）
概要説明（学校経営、教育課程の編成、少人数指導等について）
日時 平成15年12月4日（木） 14：00～15：30
来校者 佐賀県西松浦郡小中学校教務主任会より6名
内容 2年生の授業公開（算数科 少人数指導 1学級 2グループ）
概要説明（学校経営、少人数指導等について）
日時 平成16年2月24日（火） 10：00～12：00
来校者 広島県豊田郡安芸津町三津小学校より4名
内容 4年生の授業公開（算数科 少人数指導 3学級 5グループ）
概要説明（学校経営、少人数指導等について）

* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績・予定

- 平成15年5月26日（月）
山口県学力向上フロンティア推進協議会における研究発表
「発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発」
- 平成15年10月14日（火）
山口県学力向上フロンティアティーチャー研修会
「確かな学力」の内容を踏まえた学習指導・学習評価の工夫改善について
小中学校別協議会 管区別協議会

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無